

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
大郷町	粕川地域	令和4年3月15日	令和2年3月

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	451ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	259ha
③地区内における出し手の面積の合計	15ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	13ha
(備考)	

2 対象地区の課題

粕川地域では、高齢化が進んでいることや働き手の不足、農作物の収益が上がらないなどの課題がある。また、農業用機械等が高額なため更新できないなどさまざまな課題がある。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中間管理機構を通して農地の集約化を図りながら、新品種の導入や高収益作物への転換、ほ場の再整備による効率化、コスト削減等により経営を確率することで、地域の担い手、後継者育成を目指す。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

- 農地中間管理機構の活用方針
将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、農地を機構に貸し付けていく。また、中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸し付けを進めていく。
- 新品種の導入・高収益作物への転換方針
米、大豆等の土地利用型作物では、地域に合った新品種の導入や作付け体系などを検討していく。また、土地利用型作物以外では、野菜や子実用トウモロコシ等の収益性の高い作物の生産も視野に普及センターやJAと連携し情報を収集する。
- ほ場大区画化への取組方針
農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、粕川地域においては、ほ場の再整備に取り組んでいる。

粕川地域の課題と解決方法

